

京都大学における発達障害学生への対応 ～障害学生支援担当者の視点から～

京都大学身体障害学生相談室
相談室員 村田 淳

KYOTO UNIVERSITY



1

はじめに(京都大学の概要)

- 1897年創立
- 自由と調和を基礎とした基本理念
- 10学部17研究科 etc
- 学生:約22,700名 教職員:約5,400名

京都大学概要2009年より



KYOTO UNIVERSITY



2

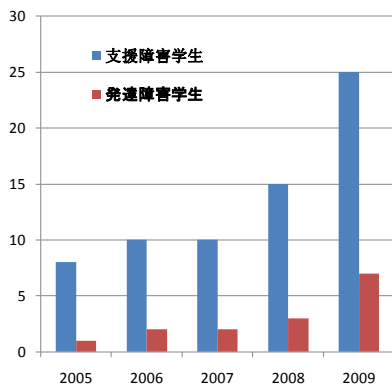
身体障害学生相談室について

- 障害学生支援の専門窓口として、2008年4月に実質的に開室
- 室長：津田 謹輔（人間・環境学研究科 教授）
…身体障害学生相談室管理運営委員会の委員長を兼務
- 相談室員2名が常駐し、支援のコーディネートと日々の学生対応を行う

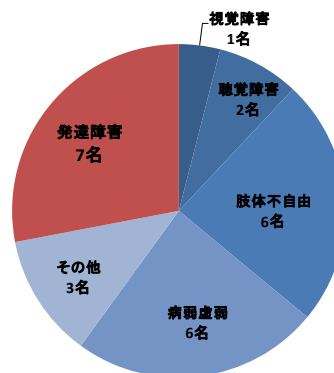


障害学生の在籍状況

- 在籍数の推移（過去5年間）



- 障害種別の比率（2009年度）



発達障害とは...？

- LD・・・学習障害
- ADHD・・・注意欠陥多動性障害
- 広汎性発達障害(PDD)
 - 「高機能自閉症」
 - 「アスペルガー症候群」
 - 「特定不能の広汎性発達障害」

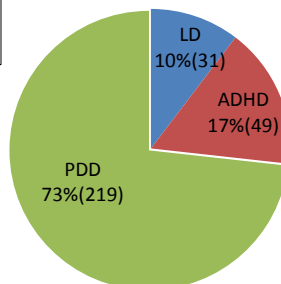
※ 発達障害者支援法(平成17年4月1日施行)



広汎性発達障害(PDD)

- 社会性の障害(対人関係)
- コミュニケーションの障害(言語機能)
- 想像力の障害(こだわり、固執性)

高等教育機関における
発達障害学生(診断書有)の
在籍状況【2008年度】



独立行政法人日本学生支援機構発行
「平成20年度(2008年度)大学、短期大学及び
高等教育専門学校における障害のある学生の
修学支援に関する実態調査結果報告書」より



< 事例紹介 >

※パワーポイントをご覧ください。



支援にあたり問題になること

- 障害そのものの理解が難しい(理解してもらいにくい)
- 診断の有無が様々
- 本人、親の障害受容が様々
- 個別性がとても高く、学生それぞれに合わせた多様な支援が必要になる
- 支援の範囲が定めにくい(どこまでやるのか)
- 有効且つ適切な支援の判断が難しい



支援担当者として

- まずは、自分が理解する(理解しようとする)
- 障害学生支援の現場として、出来ることと出来ないことを予め整理しておく
- 関連窓口が連携して対応できるようにする(個人や支援室だけで、なんとかしようと思わない)

関連窓口との連携

- 【心理】 カウンセリングセンター
- 【医療】 保健管理センター
- 【就職】 キャリアサポートセンター



- 連携には、本人や親の承諾が不可欠
- 個人情報のやりとりは必要最低限に

- 【支援】 身体障害学生相談室

※ 地域の支援センターや医療機関、出身高校との連携も・・・

最後に

- 支援のニーズは高まることが予想される
- 障害学生支援の経験やノウハウは応用できる
- 発達障害学生の支援づくりの経験は、他の障害の支援づくりにも活きる
- 学内の関連窓口や他大学と繋がりをもち、情報を得る
- **障害学生支援の視点からでも、出来る支援をやり始める(考え始める)**



ご静聴ありがとうございました。

京都大学身体障害学生相談室
相談室員 村田 淳

